

2017 年度

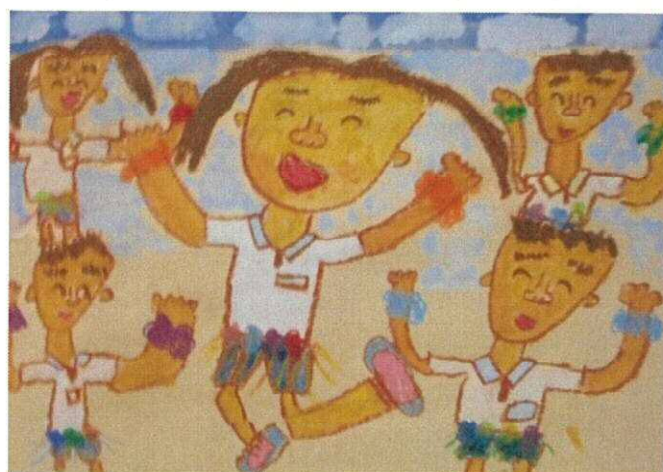
# 人権作品集

「人権」に関する標語選定作品 小学五年生

リーダーに

いじめをなくす

ぼくたちが



「人権」に関する図画選定作品

小学1年生



「人権」に関するポスター選定作品

中学3年生

「差別をなくす」

標語で終わらず

実行へ

「人権」に関する標語選定作品 中学一年生



## はじめに

名張市・名張市教育委員会では、日常の家庭生活や学校生活、社会生活などでの体験を通して実感された、人権を守ることの大切さや偏見・差別などの社会の不合理をなくしていくことへの思いを表現した人権作品を市民のみなさまから募集しています。

本年度も、小学生・中学生・高校生・高等専門学校生をはじめ市民のみなさまから、「人権」に関する作文・標語・ポスター（図画）を合わせて一万二千五百二十六点もの応募をいただきました。また、一般の方から作文・標語の部に応募いただきました。人権作品の取組が、小中高校生から一般の方々に広がっていることをたいへんうれしく思っています。

全体を通して見てみると、あらゆる差別や人権問題の解決のため、家庭や学校・社会生活で自ら体験したことや感じたこと、学習で学んだことを通して、人権尊重の大切さや、差別をなくしていくための意見、感想が述べられている作品、また自分自身を振り返り、自分の問題としてできることをしていることとする姿勢や意欲が伝わってくる作品が数多く見られました。日ごろの学校、地域等での人権・同和1教育の取組の成果だと喜んでいきます。

この作品集には、応募いただいた作品の中から、小学生・中学生の作文十一點、標語十八點、図画・ポスター二十點、を掲載しました。

これらの作品の中から、図画・ポスターの一作品、標語の一作品を啓発用ティッシュとして活用させていただきます。また、図画・ポスター八作品と標語の七作品を掲載した人権カレンダーも、制作しました。

この作品集を通して、人権について考えていただくとともに、さまざまな学習の場でご活用いただき、人権意識の高揚と人権・同和問題の一日も早い解決に向けて、一層ご尽力いただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年度、作品をご応募くださいましたみなさまに厚くお礼申し上げますとともに、来年度、より多くのみなさまにご応募いただきますよう心からお願いを申し上げます。

# 目次

## 作文

### 【小学生の部】

- 学きゆうのみんなにつたえたいこと
- かわいい いもうと
- 言わないといけないこと
- いじめ
- アトピーと私
- 友だちとつながる
- 私にできること
- 差別を止めるために

	学年	ページ
学きゆうのみんなにつたえたいこと	二年生	4
かわいい いもうと	二年生	5
言わないといけないこと	四年生	6
いじめ	四年生	7
アトピーと私	五年生	8
友だちとつながる	五年生	9
私にできること	六年生	10
差別を止めるために	六年生	11

【中学生の部】

○「女子力」という「言葉」

二年生 . . . 12

○言葉の使い方

二年生 . . . 13

【高校生・高等専門学校生・一般の部】

○「アサガオ」を読んで

. . . 15

標語

【小学生の部】

. . . 16

【中学生の部】

. . . 17

【高校生・高等専門学校生・一般の部】

図画・ポスター

【小学生の部】

. . . 18

【中学生の部】

. . . 22

## 学きゅうのみんなにつたえたいこと

(小学二年生)

わたしの学きゅうは、べんきょうでこまった時にたすけ合えるし、「ありがとう。」をちゃんとと言える子もたくさんいます。だけど、友だちをきずつけてしまったりおこらせたりしてしまうことがあります。ある日、AくんがBちゃんに「うざい。」と言っているのを見かけました。わたしは、いっしょに見ていたCくんと、

「そんなん言ったらあかんで。」とAくんに言いました。わたしがとめやかなあかんと思っただからです。でも言ってもやめてくれなかったので、わたしはその時とてもこまりました。言っただけのことわすれてしまうけど、言われた方ははらがたつし、すぐくいやな気もちになるからわすれられないと思います。わたしも、プールでなかなか顔をつけられなかった時に「びびりやなあ。」と言っただけにされたことがわすれられないからです。だから、いやな思いをしている子がいたらまもりたいです。

前に、友だちがみかたをしてくれてうれしかったことがあります。Dくんが先生のペンをかってにさわっていた時に、わたしが「かってにさわったらあかんで。」

と言っただけで、Dくんに「先生のペンさわった！わるく！」

と言われました。正しいことをしたはずなのにそんなふうに言われて、すぐぐっしょりして目になみだがうかんできました。でも、BちゃんとEちゃんとFちゃんが、

「Gちゃん(わたしの名前)、わるくないで。」

と言っただけでたすけてくれました。その時、すぐくあん心したことをおぼえています。

友だちがいやなことを言われたり、友だちにたすけてもらったり、友だちをたすけたり、いろいろなことがあるけど、それでもわたしは、二年生のぜんいんのが大すきです。友だちがいやなことをしたり言ったりする子も、いらいらして言ってしまったているだけで本当はみんなのことが大すきだと思います。なぜかという、友だちとあそんでいる時すぐくたのしそうだからです。わたしは大すきな二年生のみんなにつたえたいことが二つあります。一つ目は、こまっている子やつらい思いをしている子に、「どうしたん？」と声をかけている子がいるから、そんな子もつとふえてほしいということ。人の気もちを分るのはむずかしいことだけど、考えることならできると思うし、とても大切なことだと思います。わたしも考えていきたいし、みんなにも考えてほしいです。

もう一つは、いつも笑顔でいてほしいということです。わたしは、自分がにこにこしているときまわりのみんなも笑顔になつてくれると思っと思っています。笑顔でいると、みんなに広がってみんながにこにこになるからです。

みんながおたがいに友だちの気もちを考えて、笑顔いっぱいみんながしあわせな二年生にしていきたいです。

かわいい いもうと

(小学二年生)

ぼくは、夏休みに「おにいちゃん」という本を読みました。その本で気になったことがあります。それは、いもうとのユウカちゃんが、おにいちゃんにいやなことを言ったり、わるいことをしたりすると、おにいちゃんがいもうとの頭をたたいてしまいます。ほんとはいもうとがわるいけど、ユウカちゃんの頭がだいじょうぶかしんばいになりました。なぜかという、ぼくにもいもうとがいるからです。

おかあさんに、「いつもいもうとにはやさしくしてね。」と言われていて、いもうとにやさしくしています。だから、ぼくはたたいたりしません。ぼくのいもうとのAちゃんは、ダウンしようで、みんなよりゆつくり大きくなります。みんなよりつかれやすくて、きげんがわるくなったりします。ぼくはAちゃんのにこにこをもうちよつとふやしたいです。どうしてかという、学校に行ったとき、友だちをいっばいつくってほしいからです。だからぼくは本を読んであげたり外であそんであげたりしています。

もう一人のいもうとはBちゃんです。Bちゃんはにこにこしているけど、いっしょにあそべないときは、すねて元気がなくなります。もつと元気である時間をふやしたいです。Bちゃんのすきなトマトをそだててあげたり、すきなあそびをしてあげたりしています。

AちゃんやBちゃんにも、いろんな人にやさしくしてほしいから、ぼくもいもうと二人にこれからもずっとやさしくしていきま

す。いもうと二人がないたりしたときたいへんだけど、えがおを見たらぼくがうれしくなるからたくさんあそびたいです。一人だとなんのあそびをするかまようけど、いもうと二人のすきなあそびをしているうちに、ぼくもたのしくなります。二人がいないとさびしいから二人が生まれてきてくれてほんとうによかったです。

## 言わないといけないこと

(小学四年生)

友達がいてよかったと思うことは、友達と話したり話しかけられたりすることです。話し相手がいなかったらつまらないし、話しかける人がいなかったら楽しくないし、遊ぶ人がいなかったらひまだから、友達がいるということとは、とても楽しくてうれしくていいことなのかなと思います。

でも、友達のことではなやんだり、うまくいかなかったりすることもあります。AさんとBさんと遊んだときに、何をしても遊ぶかでけんかになりました。Aさんは、

「この遊びあきた。」

と言ったけれど、Bさんとわたしはその遊びで遊びたかったので、AさんにBさんが

「一人で遊んだら。」

と言いました。わたしは、AさんとBさんの三人で遊びたかったけれど、それを言ったらBさんがわたしをうらぎったと思うかもしれないと思ったり、何も言いませんでした。Aさんは一人で遊んでいました。けれど、楽しくなさそうでした。わたしも楽しくありませんでした。たぶん、Bさんも楽しくなかったと思います。自分達がAさんを仲間外れにしたみたいで、心がいややりました。だからわたしは、Aさんのところに行つて、あやまろうと思いましたが、けれど、あやまりに行つたら、Bさんがわたしにおこりそうな気がしてとても迷いました。でも、Bさんがおこつても、これは言わなアカンと思つて、わたしはAさんにあやまることにしました。Bさんもついてきました。わたしは、Bさんがおこると思つていたけれど、おこりませんでした。わたしがあやまるとBさんもあやまりました。仲直りしてよかったです。

思いました。わたしは、このことがあつて思いました。たとえばBさんがおこつても言わないといけないと。友達をきずつけたままにいるのは、とても悲しいことだと思います。

わたしたちは、意見があわなくて、うまくいかないことがたくさんあります。わたしはそんなとき自分の思いを言わなアカンと思うけれど、言つたらAさんやBさんがどう思うかが気になつて、なかなか言い出せません。それよりも、みんな仲良くできるためなら、自分の思いをがまんしているときの方が多いと思います。でも、わたしが勇気を出してAさんにあやまつて仲直りしたように、自分が思つたことを伝えていくことも大切だと思います。それに対して、AさんやBさんがどう思つたり、どんなことを言つてきたりするかわからないけれど、わたしの友達は、きちんとわたしの話を聞いてくれると思います。

自分ががまんしていると、まわりの友達は笑顔になるかもしれないけれど、自分は心から笑顔になれないと思います。わたしも、楽しく毎日をすごしていきたいし、友達ともなかよくしていきたいです。そのために、わたしの思いを相手にきちんと伝えていくことも大切にしていきたいです。



## いじめ

(小学四年生)

私は、二年生の一学期ごろ、友達だった子に、トイレのそうじになった日からいじめが始まりました。きつかけは分かりません。にらまれたり、その子だけ一番楽なそうじを毎日して、変わってくれなかつたりすることがありました。ほかには「もんくあるの」「なんでためいきつくねん」といった、強い言葉を言われたりしました。そんな強い言葉を言われたのはじめてだったから、そうじの時間がともいやで、泣いてしまいました。でもそんなとき、私をいじめてくる子は「なかんといてよ。」と言ってきました。私は、なくのをこらえました。

家に帰って母にそうじしました。母は、「気にせんでいいやん。」と言ってくれて、少し安心できました。次の家庭ほう問でした。私は先生にいじめのことを言えませんでした。一、二週間くらいでそうじが変わりました。でもいじめは続きました。しゃべりかけてもむしされるし、じゅ業中のときにはにらまれたりしました。

ですが、三年生になったらクラスははなれました。クラスがはなれてもいじめは続きました。なので三年生になつてから、しゃべったことはありません。四年生になつても三年生のときと同じでしゃべれていません。でも私はなかよくできたらいいと思つています。昔はなかがよかったです。なので、昔のようにしゃべったりしてなかよくしたいと思つているけど気まずいです。

このようなことを、私は一度けいけんしているから、いじめられている人の気持ちが分かります。

この人権作文を書くときに、となりに座っている友達と少し話をしまし

た。その友達もわたしいやがらせをしてきた子とは別の子から、わたしと同じようなことをされた話をしてくれました。このことで、こんなつらいけいけんをしたのはわたしだけではないと分かったので、少し安心しました。そして、自分の気持ちを相手に分かつてほしいだけでなく、相手のいろいろな気持ちを知りたいと思うようになりました。これからは、いじめられて悲しい気持ちになっている子の気持ちを知つて、できれば助けることができたいと思います。

でも、助けることはかんたんではありません。助けようとして自分もいじめられるようになってしまうのは正直こわいです。だから私に今できることは何かを考えました。一つは、いじめられている子に声をかけてあげることです。二つ目は、担任の先生にそうじすることです。前はできなかったけど、今はがんばつてやれると思います。三つ目は、友達と協力してやめさせることです。

これからは、いじめはだめだから、「やめて」を言うようにしたいです。

## アトピーと私

(小学五年生)

私は、小さいころからアトピーでした。手足がかゆくてねむれない日もありました。病院でもらった「ステロイド」という薬をぬることで、かゆみがおさえられて、夜もねむれるようになりました。でも、アトピーは治らず、ききめの強いステロイドを使うようになっていきました。それでも治りませんでした。

小学生になっても、大好きなプールに入れなかったり、体育の後は顔が真っ赤になったりしました。中学年までは、友だちから、

「ぶつぶつうつらへんの？」

と言われたり、笑われたりしました。学校では泣かなかったけど、家では泣いていました。「アトピーにならなかつたらそんなこと言われなかつたのに。」私はずっとそう思っていました。

私のはだがよくならない事を心配してくれていたそ父が、夏休みに漢方治りようをすすめてくれました。病院で話を聞いてみると、ステロイドをやめると一時的にアトピーがひどくなるリバウンドがあり、治すためにはみんなが通る道だと言われました。それに、私はずっとステロイドをぬっているから、すごくひどいリバウンドになるとも言われました。リバウンドをした人の写真を見せてもらった時は、すごくこわくて泣いてしまいました。

すぐには決められなかったのですが、その日は家に帰りました。リバウンドしたら、友だちにきらわれて、友だちもいなくなつて、学校へも行けなくなつて、野外活動も修学旅行も行けなくなると思っていた私は、毎日泣いて過ごしました。夏休みの終わりにやっと決断し、病院に行きました。すると、かんごしさんが、同じように漢方治りようした自分の子どものことを話しな

からはげましてくれました。そして、漢方治りようが始まりました。治りようのことを先生に相談に行くと、

「よく決断したね。すごく勇気を出したね。みんなにきちんと話をしたら大丈夫だよ。」

と言ってくれました。それでも不安そうな私に、先生は

「Aちゃんのことを、みんなで全力で守るから。」

と言ってくれました。その時、私も母もいっしょに泣きました。母の泣いた顔を初めて見ました。母も不安だったんだなと思いました。顔がはれてきていたので心配だったけど、先生と話した事で前向きな気持ちになりました。

始業式の日、私は勇気を出してクラスのみんなに、アトピーを治すにはリバウンドがあつて、その事でみんなにきらわれることが一番不安と自分の気持ちを正直に伝えました。みんな真げんに聞いてくれて、私はと中で泣いてしまいました。私の話を聞いて、

「心配しなくていいよ。大じょうぶ。」

とみんなが言ってくれました。

「Aちゃんのことを悪くいう子がいて、勇気が出なくて助けられなかつたらどうしよう。」

と泣いてくれた友だちもいました。また、私のことを知って、連絡をくれてはげましてくれた友だちのお母さんもいました。

みんな私の気持ちをわかってくれました。私はすごくうれしかったです。行けないと思っていた野外活動も安心して参加できました。治りようはまだ続くけど、毎日楽しく過ごせるようになりました。みんなが応援してくるから、私もがんばれるんだと思います。勇気を出して言つてよかったです。と思いました。

## 友だちとつながる

(小学五年生)

名張市人権・男女共同参画推進室の田中先生から、人権の話を聞きました。いろいろな話をしてもらった後、三つのことが心に残りました。

一つ目は、人権とは、誰もが安全に暮らせて、安心して過ごせることが大切であるということです。そして、誰もが自由にいられることと教えてもらいました。

二つ目は、同じ角度から人を見るのではなく別の角度から見ることです。人の良さが分かりもつとなかよくつながることができるということです。三つ目は、おかしいことはおかしいと伝えることが大切ということでした。

このことが心に残ったのは、四年生の時にあった出来事を思い出したからです。私は、三人の友だちとなかよしました。でも、急に私だけ独りぼつちになりました。理由は、私が周りの子たちの気持ちを考えず、きついことを言うことが度々あったからです。他の子たちは、とてもいやだったようです。私は、そのことに気づいていながら、あやまることができませんでした。そのうち一か月ぐらいたちました。でも、なかなかしゃべることができなくて、とても悲しくなりました。何で私は、あんなにひどいことを言ったのだろうと、とても後かいました。

そんな中で、他の三人の子たちと話し合う機会がありました。私は、今までの自分のことをあやまりました。同時にみんなが私にしていることなつとくがいかないことも伝えました。けれども、みんなは私だけが悪いというだけで話し合いは解決しませんでした。だから、先生も入っておたがいだ思っている気持ちを全部伝え合いました。相手のいやな部分ばかりを見ていたときには分からなかった本当の思いがやっと伝わり合い、またもとの

ように仲良くなれました。

この時のことをふり返ると、私たちは、おたがいに、相手の安全・安心・自由をうばい合っていたように思います。でも、自分のつらい思いをしつかりと伝え合うことで、またなかよくなれました。今もなかよくしています。あの時、きちんと伝え合えてよかったです。

この経験をして学んだことをいかして生活するようになりました。それは、思ったことを何でも全部言ってしまうと、相手をきかずつけないようにすることです。相手の子の気持ちを考えてものを言うように気をつけています。まだまだ、できていないところもあるけれど、今は、去年のようになりたい思いをさせていないと思つし、自分もつらい思いはしていません。毎日みんなで勉強したり遊んだりして楽しく過ごせています。これが、田中先生から教えてもらった安全・安心・自由なのだと思つます。これからも、自分ができる行動でみんなも安全・安心・自由でいられるよう、行動していきたいと思つます。

## 私にできること

(小学六年生)

わたしは、総合学習で出会った合田さんの話の中で、「人権は人と人をつないでいくことだけど、差別やいじめ、仲間はずしは、人と人とを切っていくことだ。」という話を聞いた時、すぐに自分が友達をきずつけてしまったことを思い出しました。

私にはいつも仲良くしている四人の友達があります。その中の二人が、けんかをしてしまいました。私はAちゃんからケンカの内容を聞きました。Bちゃん以外の友達もケンカの内容を知っていました。Aちゃんはその時、「もうこの四人でBちゃん無視しよ。」

と言ってきました。私はBちゃんとも仲が良かったので、それがいやでした。そして

「話しかけられて無視なんてできない。」

と言いました。そしたらAちゃんは、

「じゃあ五分休けいは話していいから、業間と昼休みはBちゃんと遊ばんところ。」

と言いました。私はあかんことだと思ったけどさからえないし、五分休みは話ができるので

「いいけど…」

と言ってしまいました。次の日から私は、五分休みはBちゃんとしゃべって、業間と昼休みはAちゃんたちとBちゃんと離れたところで遊んでいました。すぐBちゃんから離れたので、Bちゃんが話しかけてくることはありませんでした。Bちゃんは教室で一人本を読んだり、図書室ですごしたりしていました。私は離れる時は何も思わなかったのに、教室に帰って来る時はいつ

もBちゃんの姿が気になりました。悲しそうな背中から、やっぱり一人でいたんだなと感じました。私は友達を一人にして、自分だけが楽しくすごしていることがすごくいやになってきました。もう無視とかいやだと思いましたが、私はBちゃんにいやなことをされていけないし言われていけないのに、どうしてこんなことをしているのだろうと思えました。私も一人になったことがあつて悲しい気持ちが分かるのに、どうしてこんなひどいことをしているんだろうと思いました。そして私はAちゃんに、

「もうこんなことするのいややから、もうふつうにBちゃんと遊んでいい？」

と言いました。「言えたっ。」と思えました。すると、Aちゃんは言葉をつまらせながらも、

「まあいいよ。」

と言って無視をしなくなりました。

自分がいやだと感じたことを、Aちゃんに言えたのは良かったと思えました。ずっともやもやしていたことが晴れてすっきりしました。合田先生が、「止められなくても何かできる。行動を起こす。それが仲間だよ。」

と言ってくれて、自分がそれをできたことがとてもうれしかったです。

今でも四人の関係は、知らず知らずのうちにみんなが誰かを取り合つてうまくいかない時があります。ほんとうに仲良くできるのかなあと不安になる時があるけど、前のように、誰かがいやな気持ちになるような時には、ちゃんと自分の気持ちを言っていこうと思います。私にできる行動を起こしていきたいと思います。

## 差別を止めるために

(小学六年生)

ぼくは、人権学習でいじめのことを考えると、だいたい四年生のときのことを思い出します。なぜかというところ、その四年生のとき、何人かの友だちで一人の女の子に対して「気色悪い。」「言ってることが変。」などの悪口を言ったり、その子には近づかないようにしたり、その子を見て遠くから笑ったりしていたことを思い出すからです。

その時のぼくは、心の底では、「こんなこと本当はしたくない。」と思いつつも、いじめを止められませんでした。ぼくは、自分が仲間外れにあうことがこわかったのだと思います。

合田先生に人権の話聞かせてもらったときに、Aさんという女の子が出てきました。Aさんはクラスで起きているいじめに対して、おかしいと思いつつも、自分が次の標的になるのが怖くて何も言うことができなかったそうです。その話を聞いたとき、ぼくはAさんの気持ちがすごくよくわかりました。口では、いじめはだめだと簡単に言えるのに、いざ言わなければいけないときには、あと一歩が出ませんでした。それどころかぼくは、自分が仲間外れになるのが怖くて、いっしょになつてその子の悪口を言ったり、見て笑ったりしていました。いじめは、人と人とを切ることで合田先生は言っていました。ぼくはあのとときいじめていた女の子との関係をきっていたのだと気がつきました。今思うとなぜあのととき、自分はあのような行動をとってしまったのか、なぜ関係を切ってしまったのか、とても情けなく思いました。本当はなりたくなかった自分になつてしまっていたのかなと思いましたが。

合田先生の話のあとに、自分が差別をなくす側なのか、差別を残す側なの

かを考えました。ぼくはもちろん差別をなくす人になりたいです。けど、四年生のときのぼくは、差別を残す側にいました。六年生になった今でも、まだ残す側に寄っていると思います。正直、今いじめを目の前にしても、本当にそれを止める行動をとれるか不安です。ただ合田先生が「いじめをしたら、その人だけではなく、その人の家族にもいろいろいきよする。」と言っていました。今までは、いじめは本人同士の問題だと思っていたので、そこまでいきよするとは思っていませんでした。でも、その言葉を聞いて、おびえていないで勇気をもっていじめを止めなければならぬと思えました。

これからぼくは、いじめがあつたらすぐ止められる人になりたいです。そのため、友だちに流されるのではなく、しっかり自分の意見を持ち、友だちが間違つたら注意していきたいと思えます。

## 「女子力」という「言葉」

(中学二年生)

私は、普段の会話の中で「女子力」という言葉を使ったことがある。使う相手は、いつもリップクリームやくし、ヘアピンを持ち歩いている女子、そして男なのにリップクリームを持っている男子。女子にはほめ言葉として、男子には「男なのに女子みたい」というちょっとしたからかいの言葉として使っていた。中学一年生の時にある人が言った言葉を聞くまでは、私はこの言葉の使い方に疑問をもっていなかった。

私の考え方を変えたのは、中学一年生の時の実技教科の担当である女性の先生だった。授業が終わった後の休み時間、五人程の女子と先生が楽しく話していた。私はその話には入らず自分の席で読書をしていたのだが、いつの間にか話は「女子」についてになっていて、本を読みながらも自然と内容が気になっていく自分がいた。ふと、一人の女子が「先生って料理上手で女子力あるなあ。」と言った。「ありがとう。」と先生が言ったので、喜んでいいのかと思いきや、その後「でも実は先生、『女子力』って言葉あんまり好きじゃないねん。」と続けたので驚いてしまった。私と同じく驚いた皆がなぜかと聞くと、先生はこう答えた。「女子力って、女性は料理や家事ができて当然みたいなイメージがあるけど、それが決めつけてるみたいで嫌やから。それに、男性に使うと、本当はからかうための言葉じゃないのだから。かっているような感じがするから。だから、あんまり好きじゃないねん。」この言葉を聞いて、今までの自分を振り返ってみた。「女子力」をどのような意味で使っていたか。それを誰に対して使うものかと思っていたか。言われてみれば「女子力」と聞くと、女性の魅力は料理や家事が当たり前でできることにあるのかと思ってしまうが、それは勝手な思いこみだし、男性で

料理や家事が得意な人だっている。これは「女性は当たり前でできるものだ。」「男性ができるなんて女性みたい。」という決めつけと言える。実際、私は料理も家事も全然できないし、レストランなどの料理人のほとんどは男性なので、やはりこの考え方はおかしい。また、男性に使うことによつてからかいの言葉になってしまうのは、私もそういう使い方をしていたのでよくわかる。こうして考えてみると「女子力」という言葉によつて不愉快な思いをしている人がいるかもしれないことに気付いた。そして同時に、私がその思いをさせている側であることにあせりを感じた。

この話を家で母に話してみると、「そういえば私も、軽い気持ちで使ってたわ。」と言った。つまり、軽い気持ちで使ってしまうことは誰にでもあるということだ。しかし、それを「仕方がない」で済まさないでほしい。私も「小さくてかわいい」と言われたことがある。ほめ言葉として使ったのだと思うが、身長が低いことを気にしていた私にとつてはあまり言われたくない一言だった。言った側と言われた側の両方を経験したからこそ、もしかしたら自分の言葉が人を傷付けているかもしれないと考えることが大切だと思う。私は先生の話聞いてから、自分が言おうとしている言葉を一度自分に言ってみるようになっている。もし自分が言われたらどう思うか、嫌だと感じないかを確認するためだ。そうやってこれからも言葉を選んでいけば、相手の気持ちを考えられる人間に近づけると思うし、私はそうになりたい。

## 言葉の使い方

(中学二年生)

最近、「死ね」や「うざい」などのことばをよく耳にします。それは悪口や陰口ではなく、友だち同士の会話の中です。

「仲の良い関係だから言っている。」

「自分がふざけて言っているってことくらい、相手は分かってくれている。」  
そう考えて、友だちに「死ね」や「うざい」を言っている人が多いと思います。

クラスで、『携帯電話の利用のしかた』の授業がありました。そのとき先生が、

「友だち同士のLINEで、『死ね』とかの言葉が送られてきたらどう思いますか？」

と尋ねました。ある子が、

「友だち同士やったら、ふざけて送ってきているというくらい、分かると思う。仲がいいから言っているんじゃないかと思う。」

と答えていました。

私は聞いていて、本当にそうなのかと思いました。いくら仲がよくても、言われたら傷つくことだってあるし、それは言っている側がただ相手の気持ちに気づいていないだけだと思います。

ことばは、言い方によって相手を気分よくさせることもできます。また、逆に嫌な気持ちにさせてしまうこともできます。自分が言っていることばで、相手がどんな気持ちになっているかを、相手の立場に立って考えることが大切だと思います。

特に携帯電話では、ことばの誤解を招くことがあったり、相手の受け取り

方次第で不快な思いにさせてしまったりします。受け取った側も、友だちのことばで傷つくことがあったりします。実際、私もそのことばによってギクシヤクシヤ関係が続く、気持ちが悪くもやめたことばもあります。

顔を見て話していたら、相手の表情も分かり、相手が冗談やふざけて言っていることは分かります。しかし、携帯電話のLINE上では単語だけが並ぶので、仲のよい友だちでもことばだけが印象に残ります。「死ね」や「うざい」ということばに、心は深く傷つくと思います。だから、友だち同士の会話の中でも、「死ね」や「うざい」ということばをふざけて言っただけはないと思います。

小学生のとき、『ふわふわことば』『ちくちくことば』というのを勉強しました。相手を思いやることばがふわふわことばで、相手を傷つけてしまうことばがちくちくことばです。今そのときに勉強したことを思い出しました。

大人になってくると自分の主張を優先してしまい、相手を傷つけたり不快な思いにさせたりしてしまいます。そしてなかなか謝ることができなくなってきました。だからこそ、まずは相手の立場でものを考えていきたいと思っています。

家で友だちとのLINEのことを話題にしていたとき、母から「あんたもそういうことばの使い方はあかんぞ。」と言われました。そのとき私は「は？」と言ってしまいました。その後、母は何も言いませんでした。しかし、私の「は？」のひとことで、その場の雰囲気は悪くなりました。私は携帯電話を触り、母は夕食づくりで一言もしゃべらない時間が続きました。私の言った「は？」ということばで母との会話がなくなると、何も話してくれない母の気持ちを考えてしまいました。母は、私に何かを言ってくれようとしていたのではないか。それを、私が一方的なことばを返したことで遮ってしまったのではないか。私はすごく反省しました。

その後の夕食時にもう一度その話になり、友だちとのことを話すことができませんでした。母からは、「ことばを切るような『は？』なんていうことばは、すごく不快になったし、話をする気がなくなったわ。」と言われ、素直に反省しました。

友だちとの会話の中で「は？」ということばはよく使ってしまいます。しかし、それは人を不快にさせてしまうことばのひとつであり、気をつけないといけないと強く思いました。注意されて気がつくこともたくさんあります。今回のことも、母から注意されていなかったら、相手がどう感じているかということを考えることはありませんでした。

「友だちだから分かってきている。」

「友だちやからいいやん。」

ではなくて、ことばの使い方には、やはり相手を思う気持ちがあることが大切だと思います。

これからの私は、会話の中で常に相手の気持ちを考えられるようにしたいと思います。



## 「アサガオ」を読んで

(高等専門学校一年生)

僕はこの作品を読んで、妹の事を思い出しました。

夏休み前、小学一年生の妹が、寮生活をしている僕のところへ一通の手紙を送ってくれました。

「いっぱいさいたよ。わたしアサガオだいすき。おにいちちゃんはすき？」  
手紙には、アサガオの葉の液で色付けした折り紙が一緒に入っていました。

中学校の時まで毎日一緒に遊んでいた妹ですが、この春から僕は家族と離れて、野球と勉強に打ち込んでいます。どんな辛いことがあっても負けないうぞという気持ちで高専に入学したのですが、毎日の厳しい練習にくじけそうになっていました。しかも頑張りすぎたのか、足首を何度もくじいてしまい、六月頃に手術をし、手紙をもらったときはリハビリ期間中でした。

が、この手紙を見て落ち込んだ気持ちが吹き飛びました。と同時に、このためにも一日も早く復帰して、それまで以上に本気で頑張つて、絶対甲子園へ連れていつてやろうという気持ちが芽生えました。

僕は本当に小さい頃から怪我が多く、小学二年から今までの八年の中で、二年半近くをリハビリや安静期間にあてていると思います。中学校では腰の怪我で十一カ月も野球ができませんでした。それを機に、「もう怪我はしない」と自分に言い聞かせていたのですが、またやっしまいました。

そして、この夏には、僕の友達が一年生ながら三人も甲子園の舞台に立つてプレーしています。皆が夢見る舞台にもうすでに立っていることは本当にすばらしく、ごちやましい気持ちもあります。練習もできない自分のことを思うと、情けない気持ちになることもあります。

しかし、いつもそういう時に勇氣付けてくれるのは妹です。本当に自慢の妹です。家族旅行もいっぱい行きたいだろうし、僕とも遊びたいだろうと思ふけど、我慢して、自分を応援してくれる最高の妹です。この作品は、そんな妹を思い出させてくれました。

「あかんのと違う。ゆっくりやねんな」

この男の子のアサガオは自分だと思いました。毎日練習という努力の水をやり、見守ってくれる妹や家族、仲間、友達、指導者、お世話になった方々を栄養となる土とし、たくさんの期待という太陽の光を浴び、甲子園という大きな花を咲かせていきます。そのために、今は焦らず、ゆっくり準備して、最初の夢に向けて頑張ります。

そして、いつか家族をいろいろなところに連れていつてあげます。妹には自慢のお兄ちゃんになり、今度は僕が妹を応援して「お兄ちゃん私、夢叶ったよ」っていつか言ってくれるのを楽しみにしながら、次の夢へ向けて進みます。

【小学生の部】

学年

・ぼくたちが いじめをなくす リーダーに

五年生

・みとめ合う 自分も相手も いい気持ち

五年生

・勇気出そう 見て見ぬふりも 同じこと

五年生

・「ありがとう」その一言が 光うむ

五年生

・なぜやるの？ 自分がされたらいやなのに

六年生

・見て見ぬふりを 見のがすな

六年生

・優しさを 心のたなから 引き出そう

六年生

・話そうよ あなたのことも 私のことも

六年生

・私から はじめるやさしさ おもいやり

六年生

・支え合う 仲間と仲間 心のきずな

六年生

【中学生の部】

学年

・「差別をなくす」 標語で終わらず 実行へ 一年生

・大丈夫 自分らしさは 変えないで 一年生

・見つけよう 仲間のいいところ 素敵なところ 二年生

・弱い自分も ずるい自分も 変えられるのは自分だけ 二年生

・自分発 笑顔の連鎖 生み出そう 三年生

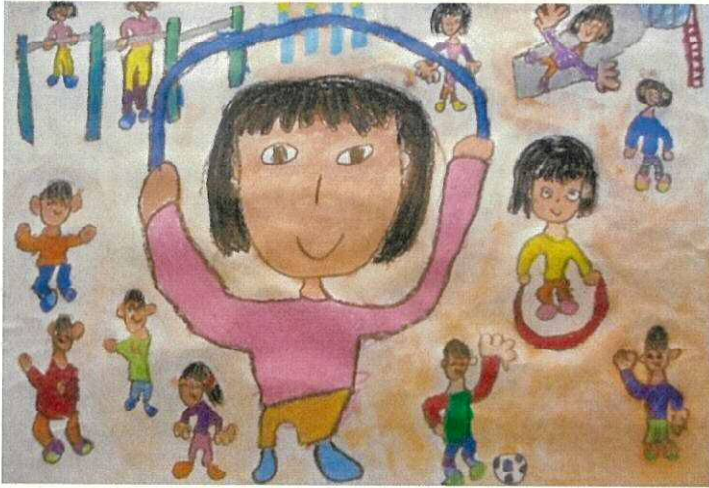
【高校生・高等専門学校生・一般の部】

・その言葉 僕もいやなら 君もいや 高校一年生

・傷つかない強さよりも 傷つけない優しさを… 高校一年生

・受け入れる 自分の個性 他人の個性 高校二年生

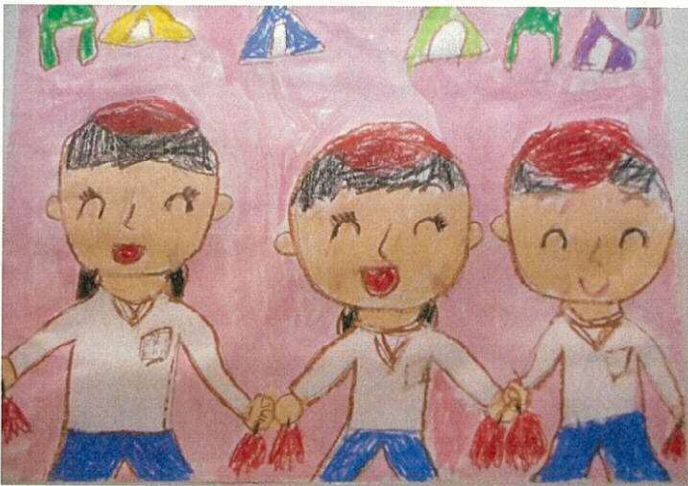
# 《小学生の部》



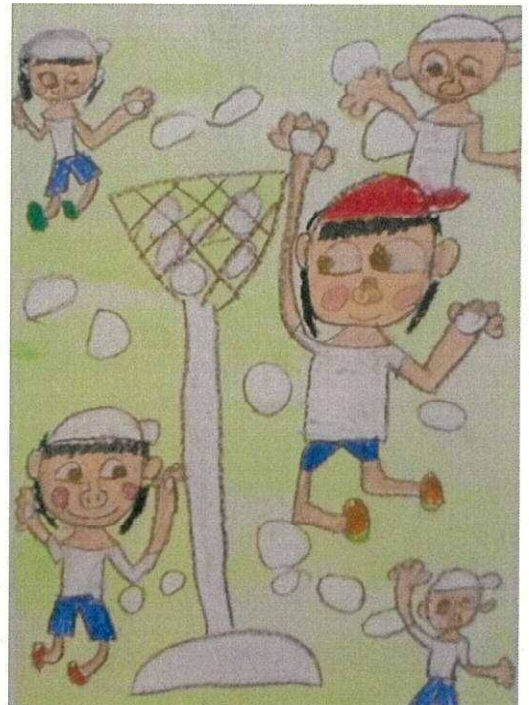
2年生



1年生



2年生



1年生



2年生



4年生



4年生



4年生



4年生



4年生



5年生



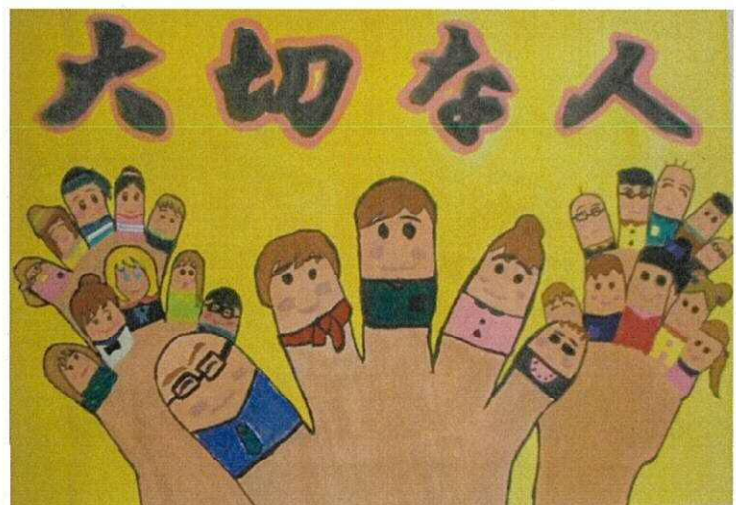
5年生



5年生



6年生

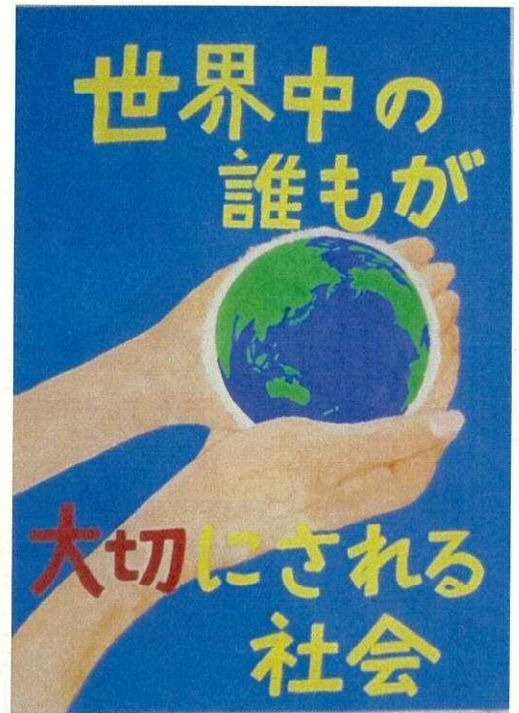


6年生

# 《中学生の部》



2年生



2年生



3年生



3年生



3年生







—人権作品集—

2018年1月発行

名 張 市

名張市教育委員会

この冊子は再生紙を使用しています。